

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：12614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00625

研究課題名(和文) 多言語データベース作成に基づく日本語における英語借用の比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of English Borrowings in Japanese Based on the Development of a Multilingual Database

研究代表者

今村 圭介 (Imamura, Keisuke)

東京海洋大学・学術研究院・准教授

研究者番号：00732679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際プロジェクトの一環として、多言語で統一した基準に基づいて英語借用データベースを作成することを第一の目的とした。結果としてGlobal Anglicism Databaseを完成させ、一般に公開している。本研究は同時に、作成したデータベースを基に、日本語を中心とした英語借用の多言語比較を行うことを目的とした。本研究ではアジア言語(韓国語、北京語、広東語)の比較を進め、日本語における英語借用の特徴が明らかになりつつある。英語借用語の全体の数、品詞別の数、接辞の借用数、基礎語彙の借用数、音韻的影響などを比較し、日本語における英語借用の特徴を客観的な指標を用いて明らかにしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語は現在、多くの地域でリンガフランカになっているだけでなく、世界の言語の語彙供給言語となり、英語からの借用(Anglicism)の増加がグローバルな現象となっている。日本語における英語借用は外来語研究として従来から高い関心を集め、多くの研究が行われてきた。しかしこれまでの研究では、多言語比較を行うという研究がほとんど行われて来なかったため、日本語に対する英語の影響の大きさが、相対的に記述することができていない。本研究では、国際的に統一された基準で作成したデータベースを作成し、具体的な指標を用いて、日本語における英語借用の特徴を明らかにすることを可能とした。

研究成果の概要(英文)：The primary objective of this study is to create a database of English loanwords based on unified criteria in multiple languages as part of an international project. As a result, we have completed and publicly released the Global Anglicism Database. Additionally, this study aimed to conduct a multilingual comparison of Anglicisms, with a focus on Japanese, based on the created database. We are on the process of comparing with some Asian languages (Korean, Mandarin, Cantonese), and illuminating the characteristics of Anglicisms in Japanese. By comparing the total number of English loanwords, the number of loanwords by part of speech, the number of borrowed affixes, the number of borrowed basic vocabulary, and the phonological influences, the study clarifies the characteristics of Anglicisms in Japanese using objective indicators

研究分野：接触言語論

キーワード：英語借用 対照研究 多言語比較 外来語

### 1. 研究開始当初の背景

英語は現在、多くの地域でリンガフランカになっているだけでなく、世界の言語の語彙供給言語となり、英語からの借用(Anglicism)の増加がグローバルな現象となっている。日本語における英語借用は外来語研究として従来から高い関心を集め、多くの研究が行われてきた。特にその増加が「言語の乱れ」「氾濫」「侵略」という否定的な言葉で語られることも多い。近年の研究では、その影響の強さが外来語の量的変化・外来語による質的な言語変化によって記述されてきた(橋本 2014『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』、Kuya 2019 *The Diffusion of Western Loanwords in Contemporary Japanese*, など)。しかしこれまでの研究では、多言語比較を行うという研究がほとんど行われて来なかったため、日本語に対する英語の影響の大きさが、相対的に記述することができていない。

その様な中で、多言語比較研究を促進するために、英語借用のデータベース作成を行うプロジェクト Global Anglicism Database (以下、GLAD)が 2015 年に始まり、その可能性と多言語比較研究の必要性が説かれている(Gottlieb et al. 2018 “Introducing and developing GLAD – The Global Anglicism Database Network”, Imamura 2018 “The Lexical Influence of English on Japanese Language : Toward Future Comparative Studies of Anglicism”)。代表者も GLAD プロジェクトのメンバーとして、国際的に統一された基準の下で日本語における英語借用のデータベース作成に着手しており、データベース完成と日本語の観点からの多言語比較研究の準備をしていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、日本語の中の英語借用を近現代にグローバルレベルで起きた言語変化として捉え、多言語で統一した基準でデータベースを作成し、比較を行うものである。国際プロジェクト GLAD の一環として日本語内の英語借用についてデータベースを作成し、他のメンバーが作成する他言語の中の英語借用のデータベースと合わせて、多言語比較を可能とする。そこから、日本語に対する英語の影響の相対的な大きさを、多言語データの量的・質的な比較から明らかにする。具体的にはデータベースの借用全体の数を借用タイプ別、品詞別、頻度別に集計し多言語比較を行う。また、借用タイプの比率、派生語と擬似英語(pseudo-Anglicism)を類型化して比較することで、日本語の中の英語借用の個別性と普遍性を記述する。さらに、それらの特徴を形づける、社会言語学的影響を考察していく。

### 3. 研究の方法

本研究は主に大きく分けて二つの部分から構成される。一つはデータベース作成であり、もう一つはデータベースを用いた多言語比較研究である。

本研究は多言語比較のために英語借用データベース作成が不可欠である。まず、代表者は令和 2~3 年度にかけて、日本語に関するデータベースの作成を行った。データ入力膨大な量になるため、研究補助者を雇用して作成を行った。データベースは、専門用語を除く 20 世紀以降に使用された英語借用を既存の辞書をもとに作成した。言語によって英語からの借用の型が異なるため、収録する語は直接借用に限定せず、混交形(hybrid)、擬似英語(pseudo-Anglicism)、音義対応翻訳(phono-semantic matching)、翻訳借用(loan translation)、意味借用(semantic loan)を含め、多様な借用タイプによる英語の影響を比較できるようにしている。

データベースの作成に当たり、次の手続きを行った。1)データベース作成のための辞書選定、2)複数辞書などからの語彙リストの作成、3)語彙リストを基にしたデータベースの入力必須項目の入力、である。

まず、幅広い年代の辞書からの英語借用語を採集するために、『外来語辞典』(1968)東京堂出版、『カタカナ語の辞典』(1990)小学館、『和製カタカナ語辞典』(1995)創芸社、『コンサイスカタカナ語辞典』(1998)三省堂、『カタカナ外来語略語辞典』(2013)自由国民社、『カタカナ新語辞典』(2016)学研プラス、を選定した。なお、それらの辞書の異なる出版年の版や、その他の外来語辞典は存在するが、全てを網羅する時間的余裕がないため、異なる出版年と出版社がカバーできるように考えて、上記の辞書を選定した。それらの辞書から、固有名詞や専門用語、英語以外が起源の語を除き、語彙リストを作成した。なお、一部、英語起源とドイツ語起源の両方の可能性がある語や、起源が定かでない語も存在したが、それらも含めた。さらに一般的な語であるが、外来語辞典のリストに漏れている語を『日本国語大辞典 第二版』(2002)小学館から拾い、追加した。

その後、使用者が複数存在することが確認できない語を除外する手続きを行なった。使用した辞書類には外来語辞典という性格上、極端に使用が少ない語も含まれている可能性があるためである。GLAD データベースでは、非常に低頻度の語も収録する一方で、特定の書き手(話し手)に使用が限定される語は除外するという基準を設定している。そのため、辞書から入力した語の中で筆者が認知していない語について、Google 検索によりウェブ上における使用例を確認した。なお、以上の手続きの結果、使用者が複数存在することが確認できない語を除外した一方で、筆者も理解できていなかった低頻度語も含めるに至った。

また、動詞、形容詞、副詞については、原語の品詞に関わらず、「する」「な」「に」が付く可能性のあるものを全て収録している。つまり、「エンジョイする」「スリムな」のような語だけでなく、「ガーデニングする」や「グラマーな」などが含まれている。名詞として収録された語のうち、全てに「する」「な」「に」をつけて Google 検索をし、複数の用例が確かめられたものを全て収録した。そのため、使用があまり一般的でない語も多く含まれている。

データベースを基に、言語別に以下を集計し、日本語を中心とした量的・質的比較を行う：量的比較として、1) 借用の総数、2) 品詞別の数、3) 借用タイプ別の数、4) 高頻度の借用語の数、5) 派生の数、6) 擬似英語の数、を比較する。

#### 4. 研究成果

まず、本研究の成果は英語借用に関するデータベースを作成したことである。作成メンバー間でミーティングを重ね、公開方法や、必要な調整について議論を行った。その結果、Dutch Language Institute の次のウェブサイトで公開をしている (<https://lex-it.inl.nl/lexit2/?db=glad&lang=en>)。なお、2023年8月時点で、データ作成(必須項目の入力)が完了しているのは、日本語(16470語)、デンマーク語(15100語)、オランダ語(9535語)、ノルウェー語(7386語)、チェコ語(5956語)、韓国語(4690語)、イタリア語(3507語)、ポーランド語(3402語)、スペイン語(3251語)、アルバニア語(2208語)、ロシア語(2034語)、フランス語(1855語)、広東語(556語)、北京語(364語)の14言語である(括弧内は2023年8月時点での収録借用語数)。ドイツ語(3797語)、ギリシャ語(919語)、ウクライナ語(731語)の3言語が現在調整中で、その他、フィンランド語、カタラン語、ブルガリア語で作成が着手されたが、完成されなかった。

データベースを作成・公開できた一方で、多言語比較を行う上での問題点が多いことも明らかになった。データベースの質的差異に関する修正作業が続けたが、その限界点も露呈された。GLADデータベースに対する認識、期待、熱意や、作成者の研究経歴や理論背景、研究関心、または時間的、金銭的、組織的な制約、さらには作成者間の文化的背景違いなどが影響して、言語間のデータの質に差異が生まれているからである。このような課題を克服して差異を調整することは、当初考えていたより大きな時間と労力がかかるものである。このようなデータベースの特徴や問題点に関しては、今村圭介(2024)「GLADデータベースの作成と公開 —英語借用のオープンデータの現状と多言語比較研究への活用の可能性」『計量国語学』34(4):319-329にて詳述している。

データベースを利用するに当たって、更なる調整が必要であるという点に加え、コロナ禍で国際的なプロジェクトの進行が一時中断していたことが原因で、本研究で予定していた多言語比較を計画通り進めることができなかった。その点に関しては、次の研究プロジェクトを計画しており、本研究で残された課題に対する研究を行う予定である。一方で、いくつかの言語と比較を行うための調整に着手し、多言語比較研究も進めることができた。特に韓国語とは、各語のカテゴリー分けや、データベースの入力方法に差異がないかを確認し、差異の解消に努めた。また、北京語と広東語についても作成者と連携を取り、データベースの不一致や質的差異の解消に努めた。修正したデータベースを基に、日本語とそれらの言語の比較を進めている。特に韓国語との比較が進んでおり、その結果として興味深いデータも出てきている。研究の成果は、韓国日本語学会 第48回国際学術大会にて、「日韓両言語に対する英語からの影響の測定比較」という題で発表した。また、その成果は論文として刊行が決定している(今村圭介・李賢貞・孫美貞・李承民・李舜炯(2024)「日本語と韓国語に対する英語からの影響の測定比較」『日本語学研究』80)。また、広東語と北京語との比較も進めており、論文を執筆中である。その成果は、Gottlieb et al. (forthcoming) *Anglicisms around the Globe: Cross-linguistic Studies on the Impact of English*. Routledge の一章として刊行予定である。

さらに、データベースを用いて借用語の中の pseudo-Anglicism に関する考察も進めている。意味変化を類型について考察を進め、今村圭介(2023)「日本語における英語からの借用語に見られる意味変化の類型」『日本語学研究』78:145-162として発表した。また、pseudo-Anglicism の形成に関わる社会言語学的要因を考察し、「A Sociolinguistic Analysis on Pseudo-Anglicisms in Japanese」というタイトルで発表した(April Conference Fifteen: Humanities (Jagiellonian University in Krakow))。なお、発表した内容は、同タイトルの著書論文として、*Multiculturalism in Asia: Reflections, Trends, and Challenges*. (Depok: Rajagrafindo Persada) という本の一章として出版した。さらに、GLADデータベースの他の言語との多言語比較も進めており、こちらも前述した Gottlieb et al. (forthcoming) の一章として、刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 今村圭介	4. 巻 78
2. 論文標題 日本語における英語からの借用語に見られる意味変化の類型	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語学研究	6. 最初と最後の頁 145 ~ 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14817/jlak.2023.78.145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村圭介	4. 巻 34(4)
2. 論文標題 GLADデータベースの作成と公開 英語借用のオープンデータの現状と多言語比較研究への活用の可能性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 計量国語学	6. 最初と最後の頁 319-329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24701/mathling.34.4_319	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 今村圭介
2. 発表標題 多言語データベースを利用した日本語における英語借用の研究
3. 学会等名 韓国日本語学会 第46回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keisuke Imamura
2. 発表標題 A Sociolinguistic Analysis on Pseudo-Anglicisms in Japanese
3. 学会等名 April Conference Fifteen: Humanities (Jagiellonian University in Krakow) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 今村圭介、李賢貞、孫美貞、李承民、李舜炯
2. 発表標題 日韓両言語に対する英語からの影響の測定比較
3. 学会等名 韓国日本語学会 第48回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Magdalena Szczymbak and Anna Tereszkievicz (eds.) Keisuke Imamura etc.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Jagiellonian University Press	5. 総ページ数 574
3. 書名 Languages in Contact and Contrast	

1. 著者名 Albertus Fenanlampir   Keisuke Imamura   Ibnu Nadzir Daraini   Yang Wu-Hsun Ahmad Najib Burhani   Elly Malihah   Ian Davies   Raihani   Melani Budianta Suray Agung Nugroho   Yudi Darma   Robertus Robet   Rachmad K. Dwi Susilo Ira Indrawardana   Bambang Purwanto   Dianni Risda	4. 発行年 2023年
2. 出版社 PT RajaGrafindo Persada,	5. 総ページ数 250
3. 書名 Multiculturalism in Asia: Reflections, Trends, and Challenges	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 1st GLAD Asia Symposium	開催年 2022年～2022年
-----------------------------------	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------